

Funehiki High School News vol.113

◆国公立大学に3人合格

昨年12月7日現在、本校3年生の就職内定率は94.7%に達しました。女子は100%に達することができました。進学では、3人の生徒が見事、国公立大学の合格を勝ち取りました。3人というのは、平成元年以降では最高の数字です。それぞれ内定した進学先は次のとおりです。

- 大内綾華さん(三春中出身): 福島大学 人文社会学群 経済経営学類
- 吉田公幸さん(船引中出身): 宮城大学 事業構想学群 地域創生学類
- 渡辺希和さん(都路中出身): 宮城教育大学 教育学部 特別支援教育教員養成課程

これからは見据え、合格を決めてなお自主学習に励んでいる3人に、インタビューしました。

Q 大学を選んだ決め手は?

大内さん「経済経営学類の比較経済史に興味をひかれました。国際的な勉強をしていけると思いました。」

吉田さん「地域創生を目指し、実際に自治体と協力して様々な活動しているところに魅力を感じました。」

渡辺さん「特別支援教育の5つの領域を深く学べるカリキュラムが決め手でした。」

Q 将来の夢は?

大内さん「金融機関に就職して、世界を相手に仕事をしたい。どんな職業に就いて、どんな仕事ができるのか、大学で探すのも楽しみです。」

吉田さん「地元に戻ってきます。そして、公務員試験に合格して県庁または市役所に勤め、私の生まれ育った福島県を盛り上げたいです。」

渡辺さん「特別支援教育の教員になるのが夢です。中学校の特別支援学級に通う生徒を1人でも多く支援していきたいです。」

Q 学生生活に向けて意気込みを。

大内さん「資格もいろいろ取りたい。海外調査実習もあるので、そこで現場での対応能力を高め、視野を広げたいです！」

吉田さん「まずはしっかり勉強ですね。一人暮らしも始まるので、自立した生活ができるようがんばります！」

渡辺さん「長期留学をしたい。外国語やコミュニケーション能力を身につけるために、アクティブに行動したいです！」



▲左から渡辺さん、吉田さん、大内さん

◆ジュニアインターンシップに参加しました

11月15日から17日まで、郡山公共職業安定所主催で開催されたジュニアインターンシップに1年生が参加しました。参加者は、昨年度までは希望者のみでしたが、今年度は1年生全員119人です。実習を終えて学校に戻ってきた生徒たちの表情は、笑顔の中にも、どこか引き締まったように感じました。充実した3日間を過ごすことができたのでしょうか。協力いただいた事業所の皆様に改めてお礼を申し上げます。

貴重な経験をし、それぞれに自分の夢を膨らませてきた生徒2人のレポートをご紹介します。

●佐藤歩さん(船引中出身) 私は田村市都路こども園に行ってきました。こども園では、子どもたちと遊んだり、給食やおやつに時間の補助をしたり、おむつ交換をしたり、多くのことを体験しました。特におむつ交換は、初めての経験だったので、とても緊張しました。子どもたちの笑顔に支えられた3日間でした。今回の実習を通して、「保育士は子どもの命を守る職」であることを改めて認識しました。私は将来、地元で保育士として働きたいと考えています。こども園の皆さん、本当にお世話になりました。

●三瓶秀明さん(常葉中出身) 私は(株)重松製作所船引事業所に行きました。事業所では、マスクの組み立てやシール貼りをしました。どれも立ち仕事だったので、普段の学校生活とは違い苦労しました。ただ、自分の携わった仕事で製品ができあがり、社会で役立っていると思うと、これが製造の仕事のやりがいだと感じることができました。とても貴重な3日間になりました。ご指導いただいた事業所の皆さん、本当にありがとうございました。この体験で、自分に興味があること、足りないところに気付くことができました。



▲佐藤さん(左)と三瓶さん(右)



時計の針が
夜中の12時を指すとき

Celeste Hidey
セレステ・ハイデイさん
(アメリカ合衆国
オハイオ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	43

人によって、またいろいろな理由によって、元日は一年で特別な日です。アメリカでは、元日はクリスマスほど盛大な祝日ではありませんが、それでも特別な日です。

お正月中の私たちの国の伝統は、日本のお正月と比べると色あせてしまいます。私たちは通常、友人や家族と集まり、真夜中に乾杯をして、それでおしまいです。

でも元日には、多くの国々や文化に共通する何かがあると思います。それは、誰もが「新しい始まり」への期待を互いに分かち合うことです。

若い頃は、いろいろなことを日記に書いたものです。起きたことを思い返すのが好きで、過去を振り返ってみたり、自分が学んだ教訓をすべて読み返したりして楽しみました。特に一年を振り返って反省し、新年の目標を書くのはすばらしい事なので、大晦日に日記を書くのが楽しみでした。

アメリカでは、このように目標を立てることを「New Year's Resolution (新年の決意表明)」と言っています。多くの人々が、ダイエット、健康のための身体運動、禁煙などの目標を立てて気持ちを高揚させます。しかし、それらの目標を達成できる人はめったにいません。「禁酒の誓いを破るのにはまったく時間がかからない」などと、すぐにあきらめることを表わす表現をよく聞きます。

私にとって印象深いことは、元日を新しいことを始める機会にして、人は毎年変わることができるということです。信じられませんか? 何も変わらないと思いますか? でも、変わるのです。例えば2016年にあったことは、何らかの形で私たち自身を変えているのです。

人がみんな良い方向へ変わっていると考えるのですが、全員がそうなるわけではないでしょう。もしかすると、とても悪いことが起きてしまったかもしれません。仕事を失ったり、愛する人や大切な人を失ったり、もっと時間やお金があればと考えたり、新年に待ちうけていた何かのために、希望をなくしたりしてしまったかもしれません。

反対に、2016年はあなたにとって良い年であったかもしれません。そして、今の自分に満足しているかもしれません。“よかったね”と自分の肩をポンとたたいてあげているかもしれません。それはあなたは祝福されたかと実感している1人だからです。

私が言いたいのは、「あなたは去年と同じではなく、これから迎える新年にまた変わるだろう」ということです。それが人間の良さだと思います。変わることでできる良さです。私たちは毎年、他人に対してもっと親切に、思いやりを持って寛容になる機会を与えられているのです。1年前よりも、より良い人になる機会なのです。人間にだけ与えられているこのすばらしい機会に、私は感動します。

新年に自分への手紙を書いて、1年後にその手紙を読む人がいると聞いたことがあります。手紙には希望、夢、恐れ、失敗などを書けるだけ書きます。体験した喜びや試練や苦勞の記録を書きます。そして、新年にはこう変わりたいという希望を書くのだそうです。

私はこの考えが好きです。自分が目標にどのくらい到達できたかを知ることができる、すばらしい方法だと思います。過去から現在までの自分を振り返る時間がなければ、どうやって前へ進むことができるでしょうか。

時計の針が夜中の12時を指すとき、あなたがどのような場所においても、一度立ち止まって考えることをお勧めします。そうすれば、「新しい始まり」が得られるでしょう。あなたは1年前の自分ではなく、変わり始めたあなたなのです。あなたの新年はきっと良い年になることでしょう。

